

一筋縄では釣れない天然魚が生んだ泳がせ発祥河川

日置川 ダム下

敷き詰められた頭大の玉石、やさしくゆったりとした流れ。そこで釣れるアユは肩の筋肉が盛り上がり目つきも精悍な紛れもない真っ黄色の海産。これが、かつての日置川……。いや、今もこの川は生きている！
解説◎福田真也



市鹿野橋下流のポイントでオトリを泳がせる。2013年8月21日、午後から短時間の釣りで良型がそろった



高所に架かる寺山橋から日置川下流の代表的なポイントである中嶋の瀬、中嶋ゴケを望む。この時は超湯水



水面に自身の影を落とさないこと、アユに釣り人の存在を悟られないこと。これが大事。湯水期はフロロカナイロンが有効



座ったまま野アユをどんどん引き抜く福田さん



バッチリ背掛かり！満足！福田さんの顔がほころぶ



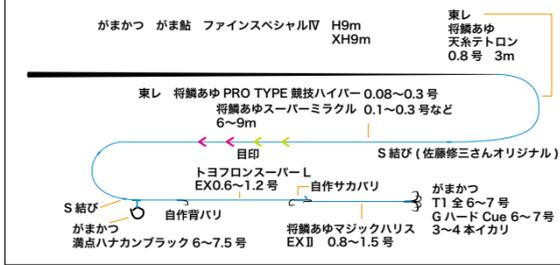
横着をしているのではない。不用意に動かすポイントを荒らさないようにするためだ

フロロラインの長手尻が有効

日置川は古くから友釣り河川としても有名で、泳がせ釣り発祥の川といわれている。特に合川（殿山）ダムから下流の本流は、そのゆったりとした雄大な流れに魅了される釣り人が多く、私も通い始めて30年以上になる。しかし通い始めたころはなかなか思うように釣れず、友釣りの難しさ、奥の深さをイヤというほど思い知らされた川でもあるのだ。

日置川に通い始めた当時は天然瀬上がたいそう豊富で、まさしく踏むほどに、たくさんの海産アユがいた。「オトリが替われば天国。さもないと地獄」を何度味わったことか……。地元、奈良の川の釣りで少しは自信があった私は、ど

福田真也さんの仕掛け



うして釣れないのか理由が分からず打ちのめされた。どうすれば日置川のアユを攻略できるのか？それが当面の課題となった。ここから私自身の仕掛けに対するこだわりや掛けバリの使いこなしが生まれていったのである。1992年、この日置川でG杯の第16回大会に優勝できた時は、言い表せない感慨にあふれたものだ。

'11年9月の台風12号による大災害以降、天然瀬上が思わしくなく漁業組合も苦慮されていることだろ。しかし現組合長は大の友釣りファンで、細かくより丁寧な稚魚放流に取り組んでおられる。往年の日置川復活を祈るばかりだ。

私なりの日置川攻略方法は、まずサラ場であればセオリードであり「朝瀬・昼トロ・夕のぼり」でやってみる。ラインはメタルが複数メタルがかわらない。ただ最近では多くの釣り人がポイントを行き交うので、釣りにくくなっているのはいうまでもない。野アユが見えるのに追いが悪い。野アユ同士は追いつているのに……。メタル系のラインで掛からず困った時はフロロカナイロンかナイロンラインにチェンジして釣るとよい。

それでも反応が悪ければ、手尻を1ヒコ、あるいは2ヒコと長く取って泳がせると効果的だ。掛けバリも4本イカリを使っていたのなら3本イカリに替えてみよう。根掛かりに注意することも大切。右にならえするのではなく、自分右の工夫を重ねてみる。そうしているうちに釣り方をマスターできるはずだ。

日置川のダム下はシーズンを通じて大の橋から下流は数釣りを楽しみ、玉伝から上流、大滝までは良型、大型ねらいというイメージで釣るとよいと思う。





10 小房の吊り橋下流。川が蛇行し水深がある。石が大きく大型がねらえる



9 小房の吊り橋上流。水量計前が面白い

至・大、宇津木方面



11 玉伝。学校前から上流にぼつんとある瀬。数釣りができるポイントで良型もまじる



8 市鹿野橋の下流。ポイント写真の撮影時は超過水で全体がトロ場に見えるが川底の変化が多く泳がせ釣りが有効なポイント。最下流の瀬には大型が付く



約 700m



7 市鹿野橋から上流を望む。玉石底でフラットな川相



川添石油店 (オトリ) 市鹿野にあるガソリンスタンドでオトリを販売している。(☎ 0739-54-0405)

市鹿野郵便局 至・將軍川方面

川原谷川

至・富田川、生馬方面

日置川ダム下のオトリ店
 民宿殿山 ☎ 0739-54-0263
 民宿岡本 ☎ 0739-54-0353
 川添石油店 ☎ 0739-54-0405
 民宿森のお宿 ☎ 0739-54-0345
 民宿やすだ ☎ 0739-54-0440
 民宿うつぎ ☎ 0739-53-0230
 民宿旭屋 ☎ 0739-53-0123
 民宿前田屋 ☎ 0739-53-0204
 民宿日吉屋 ☎ 0739-53-0253
 おとり西 ☎ 0739-53-0258

Guide
 ●管轄漁協 日置川漁業協同組合 (☎ 0739-53-0023)
 ●解禁日 5月26日
 ●入漁料 年券 1万円十消費税、日券 3000円十消費税。18歳以下は無料
 ●釣況問い合わせ 日置川漁業協同組合
 ●交通 田野井、安居など下流地区へは国道42号を利用、河口部に架かる日置大橋の信号から川沿いを北上。玉伝や小房方面は富田川沿いの生馬の交差点から生馬橋を渡り県道36号を走ると近い



民宿殿山 (オトリ) ダム下エリアで最上流の民宿・オトリ店。(☎ 0739-54-0263)



民宿岡本 (オトリ) 好ポイントの大滝が目の前にある民宿・オトリ店。(☎ 0739-54-0353)



3 大滝。民宿岡本真下のポイント。岩盤が天然の堰のようになっている珍しい場所



1 里谷橋の上流側。ダム下では最上流の釣りの場



4 大滝。民宿岡本の下流。淵に大アユが潜む



2 里谷橋の下流側。大きな淵が連続する。かつては舟の渡しがあった



6 小滝。岩盤に巻かれてラインブレイクを起こさないう、やり取りは慎重に



5 小滝。深瀬、淵が連続し尺アユがよく釣れるポイント



里谷橋 大滝 民宿岡本

1 大滝、玉伝

日置川のダム下流では最も上流に位置するエリアで、岩盤が多く石も大きく流れも荒々しい。そのダイナミックなさまは、いわゆる日置川を代表する中下流域のイメージとはかなり違う。早い時期に天然遡上したアユなら8月後半には尺近くまで大きく育つ。多くの釣り人はその魅力にとりつかれ、大アユをねらって足繁く釣行するのだ。しかし温水になると水温が上がりアユたちはどこに行ったのか?と思うほど姿を隠してしまう。とても釣りづらくなるのだ。ならば出水を待つ...の釣行になるのだが、今度は川幅が狭いゆえに深になってしまい、まったく思うように釣りができない。つまりアユが釣れずに残り大型に育つ確率が非常に高いのだ。そういったワケで終盤の大アユ釣りが存分に楽しめる、ファンが釣りに喜ぶ好ポイントなのである。なかでも特に大滝、小滝、市鹿野、小房といったポイントは一発尺アユねらいで有望だ。数は釣れないが、お盆を過ぎたころからがシーズンだ。

凡例
 (P) オトリ店
 (S) 駐車スペース
 (★) 入川口、入川道
 (📷) 撮影場所・方向
 (WC) 公衆トイレ
 (G) ガソリンスタンド
 (C) コンビニ

日置川ダム下エリア③ ←日置川ダム下エリア② ←日置川ダム下エリア①

2 大おなかじま 中嶋ゴケ

八草の瀨

流れに変化があり様々な表情を見せる日置川は「友釣り道場」とよくいわれる。大から中嶋に至る区間は、まさにその表現がピッタリと当てはまる。他の河川から初めて釣行した釣り人が面食らう釣り場なのだ。この私もかつて、そうだった。

石が小さく濁水期は流れも細く水量が少なく。案内させてもらった人から「いったい、どこを釣ったらいいの？」と、言われることもしばしば。特に荒瀬が得意な人から「サオは急瀬クラスだしハリは8号以下を持ってきていない」と言われて困ったことを思い出します。このようなタックル、仕掛けでは釣りにならない。

このエリアでの釣りにはフロロカーボン、ナイロンラインが欠かせない。ベタサオの引き泳がせで釣るのならフロロカーボンが適しているし、手尻を長く取って立てサオで泳がせ釣りをする場合はナイロンがベストだ。

ハリは6〜7号の3、4本イカリでよいだろう。サオは9〜10mの中硬クラス。水面全体がカガミのようなポイントでは長サオがおすすめ。自分の姿、影を水面に落とさず、できるだけ手前から静かに釣るためだ。とはいえ釣りに絶対的な正解はないので、日置川で釣る際の目安にしていただければ幸いである。



7 民宿旭屋 (オトリ)
久木地区にある民宿・オトリ店。福田眞也さんが日置川に通い始めた約30年前に、よくお世話になったとか。(☎ 0739-53-0123)



6 ワルゴケの下から水マクリ方向を望む



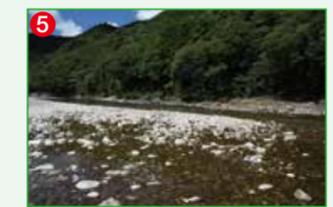
4 ワルゴケから上流方向を眺める。この先に高瀬がある



1 大橋から上流側。玉伝の学校前、榊の瀬まで点々と数釣りポイントが続く



2 大橋から下流150mにある森のお宿前の瀬



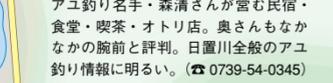
5 ワルゴケは濁水期になると流れが分かれる。こんな時は水温の上昇に要注意。30℃を超えることもしばしば



3 宇津木橋の下流。右岸側に見える竹ヤブの前が有名な高瀬。型、数ともにならえる好ポイント



8 宇津木橋の下流。右岸側に見える竹ヤブの前が有名な高瀬。型、数ともにならえる好ポイント



11 マキノ瀨の上流側。短瀬と瀬肩からのトロ場がねらいめ



11 マキノ瀨の上流側。短瀬と瀬肩からのトロ場がねらいめ



7 マキノ瀨の上流側。短瀬と瀬肩からのトロ場がねらいめ



12 津本の瀨は瀬肩のトロ場がねらいめ



8 マキノ瀨の上流側。短瀬と瀬肩からのトロ場がねらいめ



13 向平橋の下流。えびね温泉手前までトロ場が続く



9 マキノ瀨の上流側。瀬尻からのトロ場がねらいめ



14 向平橋の下流。えびね温泉手前までトロ場が続く



10 マキノ瀨の上流側。瀬尻からのトロ場がねらいめ



9 マキノ瀨の上流側。瀬尻からのトロ場がねらいめ



10 マキノ瀨の上流側。瀬尻からのトロ場がねらいめ



15 えびね温泉前は以前にくらべポイントが少なくなったが右岸側の浅場がよい



16 中嶋の瀨。釣り場は長い距離があるが短い瀬をねらいたい



18 中嶋ゴケは終盤まで数釣りを楽しめる好ポイント



17 中嶋ゴケ方向。中嶋の瀨より流れに変化が多く野アユも多い

日置川ダム下エリア③ ←日置川ダム下エリア② ←日置川ダム下エリア①

3

寺山ゴケ、田野井

日置川の友釣り場としては最下流のエリア。底石が小さく数ねらいが釣りが長く終盤まで釣ることができ、ここではよく群れアユ(いわゆる河原たたき)が浅場で乱舞するのが確認できる。このアユは時間帯で釣れ方が極端に変化するのに注意したい。これは水温の上下が大いに関係しているように、早朝の水温が低い時間帯はあまり釣れず、水温が上がりだす9時ごろになるとぼちぼち釣れ始める。そしてタマヅメに入れ掛かりになることが多い。このエリアのなかでも安居橋下流、口ヶ谷、舟木のトコ、鹿の瀬などが面白い。ここぞと思おうポイントの前に立つたら、まず川全体を眺め起伏を確認したい。馬の瀬や谷になった部分を見つけたうえで水の流れを読み、流れの脇からオトリを送り出す。釣りの起点をどこにするか、どこから釣りを始めるかが大切で、まずオトリ缶をつけたら、とにかく周辺を観察したい。この手間さえおしまなければ最初の1尾は、たやすいはずだ。

サオは9〜10m、ラインはフクロカーボン0.175号。ベタザオの引き釣り泳がせで釣る。ハリは6〜6.5号の4本イカリが合う。ボウズハゼがよく掛かる場合はアユが腐っていることが多いので、ポイントをずらしてアユが掛かる場所を捜したい。



11 鹿の瀬。下流域ではイチョウの瀬と肩を並べる好ポイント



12 現在、プールはなくなったが田野井のプール前と呼ばれた好ポイント



13 田野井橋。このあたりが日置川の友釣り場としての最下流になる



9 てんぐの瀬。チャラ瀬もよいが、周辺ではもっともよいトコ場がある



10 舟木のトコから鹿の瀬方向を望む



1 安居のオトリ店。ご主人の西司夫さんは日置川漁協の現組合長。(☎0739-53-0258)



2 安居橋を渡ったところにある備長炭を製作販売する会社。ネット販売も行っている



3 安居橋下流のイチョウの瀬。このエリアでイチョウのポイント。瀬肩のトコ、瀬肩、チャラ瀬、落ち込み、淵にいたるまでどこでもOK



4 イチョウの瀬だが、撮影時は超湯水で流れが細かった



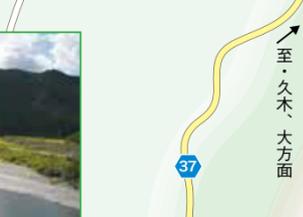
5 大辺路街道で唯一の舟で渡る熊野古道が半世紀ぶりに復活。安居の渡し保存会の会長は漁業組合長の西司夫さん



6 日置川漁業協同組合の事務所は安居の町中、郵便局の先にある



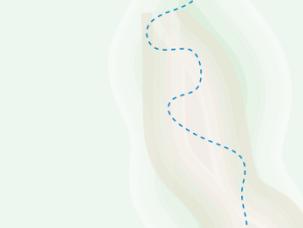
7 喫茶・茶茶(ちゃちゃ) 口ヶ谷橋のすぐ西にある喫茶店



8 4WD車なら河原まで下りられる



9 喫茶・茶茶(ちゃちゃ) 口ヶ谷橋のすぐ西にある喫茶店



10 4WD車なら河原まで下りられる



11 4WD車なら河原まで下りられる



12 4WD車なら河原まで下りられる



13 口ヶ谷。湯水期は水温が30℃を超えることもしばしば。写真のように手をつけて水温を確かめよう。手前と対岸では水温が5℃も違うポイントがある



14 長岩。ここもイドバタ同様に4WD車のポイント横付けが可能



15 イドバタ。4WD車なら広い河原へ乗り入れることができる



16 伊豆バタ。4WD車なら広い河原へ乗り入れることができる